

特集：国連持続可能な開発目標 3 (SDG3)
—保健関連指標における日本の達成状況と今後の課題について—

<解説>

SDG3 に関する国際社会の動向と日本の取組

大原佳央里, 梅木和宣

厚生労働省大臣官房国際課

International trends and Japan's efforts regarding SDG3

OHARA Kaori, UMEKI Kazunori

International Affairs Division, Ministry of Health, Labour and Welfare

抄録

2015年に採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、2030年までにによりよい世界を目指す国際目標である。地球上の「誰一人取り残さない」、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、17の目標とその下に169のターゲットを設定し、さらにSDGsの達成度をモニタリングするため232の指標を選定し、先進国と途上国や政府と民間等の垣根を越えた普遍的な取組を開始した。SDG3の下には13のターゲットと28の指標が設定されている。

国際社会では、2019年9月に開催された国連SDGサミット2019で採択された「SDGサミット政治宣言」において、2030年までをSDGs達成に向けた取組を拡大・加速するための「行動の10年」と定めた。また、2021年の第74回世界保健総会では、非感染性疾患を抱える人々の新型コロナウイルス感染症重症化や死亡のリスク、必須保健サービスの中断等が指摘され、SDGs達成に向けた進捗に対する新型コロナウイルス感染症の影響を評価することが必要とされた。

日本国内では、2015年のSDGs採択後、政府は「SDGs推進本部」を設置するとともに、3つの取組を整理した。まず、「SDGs実施指針」を作成し、2019年には「SDGs実施指針改定版」を公表して国内の基盤を整備し、国内実施と国際協力の両面においてSDGsを達成するための取組を実施することとなった。「SDGs実施指針改定版」には日本が取組を進めるにあたっての8つの優先課題が示されており、SDGs3は優先課題2「健康・長寿の達成」と優先課題6「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」に該当している。

次に、具体的な施策等は、SDGs推進本部が2018年から「SDGsアクションプラン」にとりまとめている。「SDGsアクションプラン2021」には、新型コロナウイルス感染症の拡大でSDGs達成に向けた取組の遅れが深刻に懸念されていることを踏まえ、取組を加速化していくことが示された。また、次なる健康危機に備えて強靱かつ包摂的な保健システムを構築し、SDG3で示されたユニバーサル・ヘルス・カバレッジを推進することが重要とされた。

最後に、SDGs推進の取組やSDGs達成に向けた進捗は、「自発的国家レビュー」で確認されている。2021年には、2017年以来2回目となる「自発的国家レビュー2021」が作成された。SDG3が該当する優先課題2「健康・長寿の達成」では、国内の課題と取組として健康寿命の延伸が、国際協力として途上国の保健・医療システムの強化が重要とされ、SDGs推進体制の強化や進捗評価体制の整備等による取組を進めることとした。

連絡先：大原佳央里

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2

1-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda, Tokyo 100-8916, Japan.

E-mail: oohara-kaori.hk8@mhlw.go.jp

〔令和3年8月6日受理〕

キーワード：持続可能な開発目標，新型コロナウイルス感染症，ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ，SDGs実施方針，自発的国家レビュー

Abstract

The Sustainable Development Goals (SDGs) are international goals adopted in 2015 that aim to create a better world by 2030. The SDGs consist of 17 goals, 169 targets, and 232 indicators that were selected to monitor the achievement of the SDGs, to “leave no one behind” and achieve a sustainable, diverse, and inclusive society. Among the 17 goals, SDG3, the health-related goal, consists of 13 targets and 28 indicators. Universal efforts have been made to transcend the boundaries between developed and developing countries, as well as those between governments and the private sectors, to meet the SDGs.

In 2019, the United Nations General Assembly proclaimed the Decade of Action to accelerate efforts to achieve the SDGs. The risk of the COVID-19 pandemic and the disruption of essential health services was discussed at the 74th World Health Assembly in 2021. In response, the WHO plans to assess the impact of COVID-19 on the progress toward achieving the SDGs.

After adopting them in 2015, the Japanese government established Promotion Headquarters as well as three initiatives to develop the domestic foundation for achieving SDGs through domestic implementation and international cooperation. The SDGs Implementation Guiding Principles was formulated in 2015 and revised in 2019. The revised Guidelines for the Implementation of the SDGs list eight priorities for Japan's efforts, with SDG3 falling under Priority 2, the “Promotion of Health and Longevity,” and Priority 6, the “Conservation of Environment, including Biodiversity, Forests and Oceans.”

Second, specific measures have been added to the “SDG Action Plan” by the Promotion Headquarters since 2018. The “SDGs Action Plan 2021” states that Japan will accelerate its efforts to achieve the SDGs despite delays due to the COVID-19 pandemic. Additionally, it stipulated the importance of building a strong and inclusive health system to prepare for the next health crisis and to promote universal health coverage, as outlined in SDG 3.

Lastly, efforts to promote and achieve the SDGs are published in the Voluntary National Review, which was prepared in 2021 for the second time since 2017. Regarding Priority 2, the “Promotion of Health and Longevity” related to SDG3, the extension of healthy life expectancy was identified as an important domestic issue and the strengthening of health and medical systems in developing countries was identified as an important element of international cooperation. The government has thus made efforts to strengthen the SDG promotion and progress evaluation system.

keywords: Sustainable Development Goals, COVID-19, universal health coverage, SDGs Implementation Guiding Principles, Japan's Voluntary National Review

(accepted for publication, August 6, 2021)

I. はじめに

グローバル化の進展に伴い、国際社会は格差・貧困、テロ、難民・避難民、気候変動、海洋プラスチックごみ問題等様々な課題に直面している。これらの社会・経済・環境問題は相互に絡み合い、国境を越えて繋がっている。このような国境を越えた地球規模の課題の解決のため、国連創設70周年の節目にあたる2015年9月に開催された国連総会において、193の国連加盟国・地域は「持続可能な開発のための2030アジェンダ（通称：2030アジェンダ）」を全会一致で採択した。「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals;SDGs)」は、2030アジェンダに記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。

SDGsは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals;MDGs)の後継として、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」, 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために作られた。17の目標とその下に169のターゲットが設定され、さらにSDGsの達成度をモニタリングするために232の指標が選定され、先進国と途上国や政府と民間等の垣根を越えた普遍的な取組が開始された[1]。

SDGs目標3「保健」には、多くの国が直面する項目が提示されている。SDG目標3の下には13のターゲットと28の指標が設定されており、母子保健、感染症、薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む物質乱用、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (Universal Health Coverage;UHC)、有害化学物質ならびに大気、水質および土壌

表1 SDGs目標3のターゲットと指標[1]
SDGs 目標3 すべての人に健康と福祉を

ターゲット	
3.1	2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。
	指標
3.1.1	妊産婦死亡率
3.1.2	専門技能者の立ち会いの下での出産の割合
3.2	全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
	指標
3.2.1	5歳未満死亡率
3.2.2	新生児死亡率
3.3	2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
	指標
3.3.1	非感染者1,000人当たりの新規HIV感染者数
3.3.2	10万人当たりの結核感染者数
3.3.3	1,000人当たりのマラリア感染者数
3.3.4	10万人当たりのB型肝炎感染者数
3.3.5	「顧みられない熱帯病」(NTDs) に対して介入を必要としている人々の数
3.4	2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
	指標
3.4.1	心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率
3.4.2	自殺率
3.5	薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。
	指標
3.5.1	物質使用障害に対する治療介入（薬理的、心理社会的、リハビリ及びアフターケア・サービス）の適用範囲
3.5.2	15歳以上の人口一人当たり年間純アルコール消費量
3.6	2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
	指標
3.6.1	道路交通事故による死亡率
3.7	2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスを全ての人々が利用できるようになる。
	指標
3.7.1	近代的手法によって、家族計画についての自らの要望が満たされている出産可能年齢（15～49歳）にある女性の割合
3.7.2	女性1,000人当たりの青年期（10～14歳；15～49歳）の出生率
3.8	全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセスと含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。
	指標
3.8.1	必要不可欠な保健サービスによってカバーされる対象人口の割合
3.8.2	家計の支出又は所得に占める健康関連支出が大きい人口の割合
3.9	2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
	指標
3.9.1	家庭内及び外部の大気汚染による死亡率
3.9.2	安全ではない水、安全ではない公衆衛生及び衛生知識不足（安全ではないWASH（基本的には水と衛生）にさらされていること）による死亡率
3.9.3	意図的ではない汚染による死亡率
3.a	全ての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。
	指標
3.a.1	15歳以上の現在の喫煙率（年齢調整されたもの）
3.b	主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアクセスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特に全ての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。
	指標
3.b.1	各国の国家計画に含まれる全てのワクチンによってカバーされている対象人口の割合
3.b.2	薬学研究や基礎的保健部門への純ODAの合計値
3.b.3	持続可能な水準で、関連必須医薬品コアセットが入手可能かつその価格が手頃である保健施設の割合
3.c	開発途上国、特に後開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。
	指標
3.c.1	医療従事者の密度と分布
3.d	全ての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。
	指標
3.d.1	国際保健規則（IHR）キャパシティと健康危機への備え
3.d.2	選択抗菌薬耐性菌による血流感染の割合



図1 SDGsの17の目標

の汚染に関する指標等が含まれている(表1)。これらのいくつかはわが国の健康課題とオーバーラップしており[2]、日本としても積極的に取り組み、また世界を牽引していく立場にある。特に、SDGs目標3で示されたUHCの実現に関しては、公正かつ強靱な保健システムの強化という包摂的な取組が目標として掲げられ、基本的な保健サービスから誰ひとり取り残さないために、貧困層の人々、妊婦や小児、高齢者や民族的・性的マイノリティ等の社会的弱者に支払い可能で品質が保証された保健サービスを提供することが喫緊の課題とされている[3]。わが国においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、世界において強靱かつ包摂的な保健システムを構築し、UHCの達成に向けた取組を推進することを重点事項としている。

II. 国際社会における動向

1. SDGs採択後の動向と新型コロナウイルス感染症による影響

過去5年間、SDGsの実現に向けた様々な仕組みが整備されてきた。国連では、4年に一度のSDGサミットや、閣僚級が集まる毎年のハイレベル政治フォーラム(HLPF)において、進捗状況や課題の共有を図っている[4]。また、世界および各国のSDGsの進捗状況は、毎年様々な機関から報告されている。さらに国連では、Global Sustainable Development Report (GSDPR2015, 2019)を4年毎に、The Sustainable Development Goals Report (SDGR)を毎年取りまとめて世界の進捗状況を分析しており、各国の取組に影響を与えている。

これらによると、これまでにいくつか進捗が見られたものの、このままでは多くのゴールやターゲットが2030年に達成困難であるという点で一致している[4]。このため、2019年9月に開催されたSDGサミットにおいて採

択されたSDGサミット政治宣言では、「極度の貧困、子供の死亡率、電気・水へのアクセス等で一定の進展があったものの、飢餓、ジェンダー、格差、生物多様性、環境破壊、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクへの対応に遅れが見られる」との分析が示された。グテーレス国連事務総長は、2030年までをSDGs達成に向けた取組を拡大・加速するための「行動の10年」とし、国



図2 SDG3の進捗状況[8]

際社会に強く行動を呼びかけた[5].

その後に発生した新型コロナウイルス感染症 (Coronavirus disease 2019; COVID-19) の拡大は, 世界の人々の命・生活・尊厳, すなわち人間の安全保障に対する脅威となっており, SDGs達成に向けた取組の遅れが深刻に懸念されている. 特に, SDG3では, 出産時の母親の健康や5歳以下の幼児の死亡率等に関して改善が見られてきたが, COVID-19の感染拡大に伴う死亡, またCOVID-19の医療供給体制への影響によるHIVやマラリアなど他の伝染病での死亡者増が懸念されている[4,6] (図2). COVID-19は, ウイルスが動物からヒトへ, ヒトから動物へと感染する人獣共通感染症である. 人獣共通感染症の流行は近年増えており, そこには農業集約化, 野生生物の乱獲, 気候変動, 食料システムの変化等, 人為的な原因があると言われている. この他, 格差の拡大, 都市のスラム化の進行, 医療器具・医療施設等へのアクセス不足, UHCの遅れといった課題がパンデミックの深刻化につながっているが, これらはSDGsの目標・ターゲットにほかならない[4]. したがって, 国連や国際社会において呼びかけられているように, コロナ禍に打ち勝つだけでなく「よりよい復興」に向けて取り組み, さらにSDGs達成に近づくことで人獣共通感染症に強い世界を作る必要があり, 国際社会の連携が不可欠である[7].

2. SDGsと世界保健機関 (World Health Organization; WHO)

2018年に開催された第71回世界保健総会 (World Health Assembly; WHA) において, WHOの2019-2023年の中期事業計画である第13次総合事業計画 (13th General Programme of Work; GPW13) が承認された. GPW13は, UHCを享受する人を増やすこと, 健康危機を強化すること, より良い健康アウトカムを達成することという3つの目標を掲げており, それぞれについて10億人という数値目標を設定している. 本計画は, SDGsが既に採択されているという世の中で, WHOはSDGs達成のためにどんな貢献ができるか, そのために何をすべきか

という視点で作られている.

2021年の第74回世界保健総会では, COVID-19のパンデミックにより, アルコール購入量の増加, 身体活動の低下, 孤独や家庭内暴力の増加, メンタルヘルスへの悪影響が報告されたほか, 非感染性疾患 (Non-communicable diseases; NCD) を抱える人々の新型コロナウイルス感染症重症化や死亡のリスク, 必須保健サービスの中断等が指摘され, SDGs達成に向けた進捗に対するCOVID-19の影響を評価することが必要とされた.

III. 日本における取組

1. SDGs推進本部の設置等体制整備

2015年にSDGsが採択された後, その実施に向け政府はまず国内の基盤整備に取り組むため, 2016年5月に総理大臣を本部長, 官房長官と外務大臣を副本部長とし, 全閣僚を構成員とする「SDGs推進本部」を設置し (図3), さらに次の3つの取組 (SDGs実施指針, SDGsアクションプラン, 自発的国家レビュー) を整えることで, 国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制とした.

2. SDGs実施指針

まず, SDGs推進本部の下で, 行政, 民間セクター, NGO・NPO, 国際機関等の広範な有識者によって構成される「SDGs推進円卓会議」における対話を経て, 2016年12月にSDGs達成に向けた今後の日本の取組の指針となる「SDGs実施指針」を決定した[1].

指針公表から3年後には, SDGsを巡る状況が変化し, 国際社会が新たな課題や一段と深刻化した課題に直面する中, 気候変動や貧困・格差の拡大による社会の分断・不安定化などの地球規模課題に対して, システムレベルのアプローチやインパクトの大きい取組を通じて, 経済や社会の変革を加速し, 解決に向けて成果を出していくことがより一層必要となった. また, SDGs推進の観点から, 防災や気候変動, 生物多様性への貢献も進めることも重要であることを踏まえ, 2019年に「SDGs実施指針

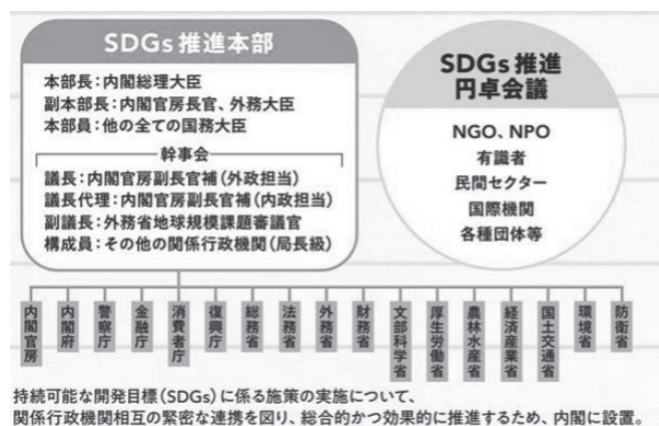


図3 SDGs推進本部の体制図

改定版」を公表した。

これまで公表してきた指針では、わが国は、持続可能な経済・社会づくりに取り組んできており、課題解決先進国としてSDGsの実施に向けた模範を国際社会に示すような実績を積み重ねてきている[9]。SDGsの17のゴールと169のターゲットの中には、日本国内においてはすでに達成されているものも多いが、世界全体における達成に向け、日本として国際協力面で取り組むべき課題も多く含まれている[10]。日本の持続可能性は世界の持続可能性と切り離すことはできず、引き続き、世界に日本の「SDGsモデル」を発信しつつ、国内実施、国際協力の両面において、世界を、誰一人取り残されることのない持続可能なものに変革し、2030年までに国内外においてSDGsを達成することを目指している。SDGsを達成するための取組を実施するに際しては、SDGsが経済、社会、環境の三側面を含むものであること、及びこれらの相互関連性を意識することが重要である[9]としている。

指針には、8分野の優先課題を掲げられており、それぞれ、2030 アジェンダの17の目標を5つのP（People（人間）、Planet（地球）、Prosperity（繁栄）、Peace（平和）、Partnership（パートナーシップ））に分類したものと対応している（図4）。なお、SDGs目標3「保健」は、優先課題2「健康・長寿の達成」と優先課題6「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」が該当している。SDGsにおける全ての目標とターゲットが不可分であり統合された形で取り組むことが求められているように、これらの8つの優先課題も密接に関わる不可分の課題であり、統合的な形で取り組むこととなっている。

3. SDGsアクションプラン

「SDGsアクションプラン」では、指針の8つの優先

課題において、2030年までに目標を達成するために推進される具体的な施策や各事業の実施によるSDGsへの貢献等が記載されている。SDGsアクションプランは、SDG推進本部でとりまとめられており、2018年から毎年公表されている。

2020年12月に決定された「SDGsアクションプラン2021」には、新型コロナウイルス感染症の拡大で、SDGs達成に向けた取組の遅れが深刻に懸念されていることを踏まえた上で、「SDGsが達成された、しなやかで強靱な、経済と環境の好循環のあるウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代を実現するには、社会全体の行動変容が必要であり、あらゆる関係者が一体となって取り組んでいく必要がある」との考えの下、以下の4つを重点事項と掲げ、取組を加速化していくこととした[5]（図5）。

- ①感染症対策と次なる危機への備え
- ②よりよい復興に向けたビジネスとイノベーションを通じた成長戦略
- ③SDGsを原動力とした地方創生、経済と環境の好循環の創出
- ④一人ひとりの可能性の発揮と絆の強化を通じた行動の加速

COVID-19の感染拡大を受け、特に保健医療システムの重要性が改めて認識された。今回の危機を踏まえて次なる危機に備え、強靱かつ包摂的な保健システムを構築し、「誰の健康も取り残さない」という考えの下、UHCを推進することが重要とされている[6]。

さらに、優先課題2「健康・長寿の達成」に関する具体的な施策としては、新型コロナウイルス感染症危機に対する取組、データヘルス改革の推進、国内の健康経営

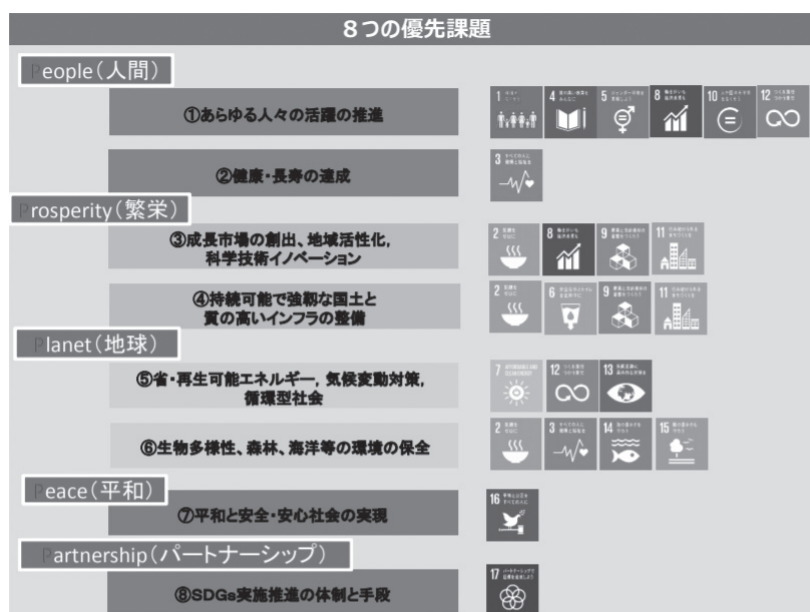


図4 8つの優先課題

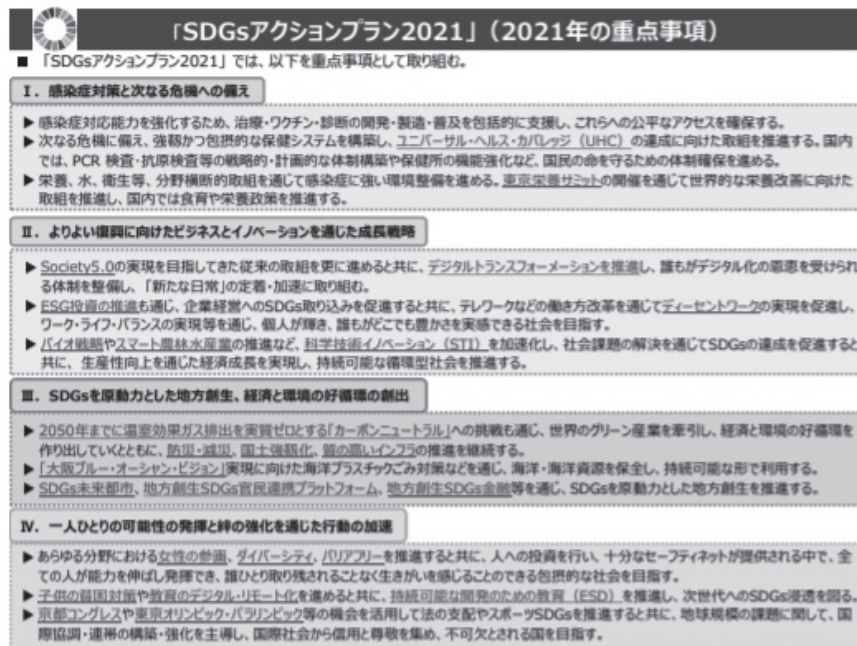


図5 SDGsアクションプラン2021 (2021年の重点事業) [6]

の推進、感染症対策等の医療の研究開発、UHC推進のための国際協力、医療産業の輸出を通じた新興国の医療への貢献等があり、それぞれ事業に落とし込まれている。

4. 自発的国家レビュー

SDGsの達成に向けた取組を着実なものとするためには、SDGsの実施をモニタリングし、レビューし、その結果に基づいて取組の改善を図ることが必要であるため、SDGsを承認した国連加盟国は、自発的国家レビュー (Voluntary National Review; VNR) という形で進捗を報告することが求められている。

わが国は、2017年7月の持続可能な開発のための国連ハイレベル政治フォーラム (HLPF) に初めてのVNRを提出し、2015年のSDGs採択以後、SDGs推進に向けてどのような体制を構築し取組を行っているかについて報告した。その後、世界規模で、政府、地方自治体、民間企業、市民社会等の様々なステークホルダーがSDGs達成に向けた行動を起こし、国内外でSDGsの認知向上やSDGs達成に向けた取組拡大がみられた。

2021年6月の第10回推進本部会合では、2017年以来、2回目となるVNRを決定した[1]。目標とする2030年まで10年を切った中、今回のVNRでは、COVID-19の拡大を越えて「よりよい回復」に向けて取り組むため、日本がどのようにSDGs推進に取り組んできたかを振り返り、SDGs達成に向けた進捗を各目標の達成状況と各指標の公表等を行い確認した[5]。

SDGs目標3「保健」が該当する優先課題2「健康・長寿の達成」では、国内の課題と取組として、高齢化の進展に伴う医療ニーズと介護ニーズへの対応、企業等が従業員の健康保持・増進に取り組む健康経営の推進、国民

の健全な食生活の実現と食育の推進等を通じた健康寿命の延伸が重要とされた。国際協力としては、新型コロナウイルス感染症により保健・医療システムの重要性が再確認されたことから、WHOの検証・改革や機能強化、UHCの達成や公衆衛生危機に対応する体制の構築を通じた途上国の保健・医療システムの強化が不可欠とされた。

IV. まとめ

COVID-19のパンデミックは、SDGsの達成に向けた取組にも大きな影響を与え、地球規模の健康課題に取り組む必要性を一層明らかにした。SDGsは新しい時代を見据え、未来を先取りした社会変革のための重要なロードマップであり、SDGsを達成するためにすべてのステークホルダーが協力して引き続き取組を推進することが重要である。

日本は、COVID-19パンデミックにおいてもSDGs達成に向けた取組が重要と考え、SDGグローバル指標のデータを国連に提出しつつ、その進捗を管理してきた。そして、2021年7月に開催された国連ハイレベル政治フォーラム (HLPF) において、わが国はVNRに関するプレゼンテーションを行ってVNRについて報告する他、地方公共団体、企業、市民社会等の取組を紹介し、COVID-19のパンデミックを克服し、「より良く立ち直る」ために、日本がSDGsの推進にどのように取り組んできたかを振り返り、SDGsの達成に向けた進捗状況を確認した[11]。

わが国は、これからも国際社会と協力し、UHCの実現を含むグローバル・ヘルスへの貢献に取り組んでいく。

引用文献

- [1] 外務省. JAPAN SDGs Action Platform. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html><https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html>, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal3.html> (accessed 2021-07-02)
Department of Foreign Affairs, Japan. [JAPAN SDGs Action Platform.] <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/index.html> (in Japanese)(accessed 2021-07-02)
- [2] 三浦宏子. わが国の自治体における健康づくり対策を基盤としたSDGs推進プログラム. 保健医療科学. 2019;68(5):380-386.
Miura H. [Activation of the SDGs program based on health promotion measures for local governments in Japan.] Journal of the National Institute of Public Health. 2019;68(5):380-386. (in Japanese)
- [3] 杉下智彦. 持続可能な開発目標 (SDGs) の背景と国際展開—グローバル・ヘルスと健康の社会デザイン—. 保健医療科学. 2019;68(5):372-379.
Sugishita T. [Background and global evolution of Sustainable Development Goals (SDGs): Global health and social design for wellbeing.] Journal of the National Institute of Public Health. 2019;68(5):372-379. (in Japanese)
- [4] 国立研究開発法人科学技術振興機構. SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの実践. https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_mar_2021.pdf (accessed 2021-07-09)
Japan Science and Technology Agency. [SDGs tassei ni muketa kagakugijyutu innovation no jissen.] https://www.jst.go.jp/sdgs/pdf/sti_for_sdgs_report_mar_2021.pdf (in Japanese)(accessed 2021-07-09)
- [5] 外務省. 2030アジェンダの履行に関する自発的国家レビュー2021～ポスト・コロナ時代のSDGs達成へ向けて～. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/vnr/> (accessed 2021-07-09)
Department of Foreign Affairs, Japan. [2030 agenda no rikou ni kansuru jihatsuteki kokka review.] <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/vnr/> (in Japanese)(accessed 2021-07-09)
- [6] United Nations. The Sustainable Development Goals Report 2020. <https://unstats.un.org/sdgs/report/2020/goal-03/> (accessed 2021-08-05)
- [7] 首相官邸. 持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部. SDGsアクションプラン2021. https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2021.pdf (accessed 2021-07-09)
Jizoku Knouna Kaihatus Mokuhyo(SDGs) Suishin Honbu. Prime Minister's Residence. [SDGs action plan 2021.] https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2021.pdf (in Japanese)(accessed 2021-07-09)
- [8] 国際連合広報センター. 持続可能な開発目標 (SDGs) 報告2020. https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/ (accessed 2021-07-15)
United Nations Information Centre. [Jizokukanouna kaihatsumokuhyou(SDGs)houkoku 2020.] https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/ (in Japanese) (accessed 2021-07-15)
- [9] 外務省. SDGs実施指針改定版. https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011220.pdf (accessed 2021-07-12)
Department of Foreign Affairs, Japan. [SDGs jisshishishin kaiteiban.] https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011220.pdf (in Japanese)(accessed 2021-07-12)
- [10] 外務省. 持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針. <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai2/siryou1.pdf> (accessed 2021-07-12)
Department of Foreign Affairs, Japan. [SDGs jisshishishin.] <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/dai2/siryou1.pdf> (in Japanese)(accessed 2021-07-12)
- [11] United Nations. Sustainable Development Goals, Knowledge Platform. <https://sustainabledevelopment.un.org/index.php?page=view&type=30022&nr=420&menu=3170> (accessed 2021-07-20)